

【万葉古代学研究所彙報】

平成二十二年度

- 二月 五日 新春万葉歌留多大会にて、竹本晃主任研究員（以下、竹本研究員と略す）と曹咏梅主任研究員（以下、曹研究員と略す）が審判長を務める。
- 二月 九日 大阪府錠前技術者防犯協力会にて、井上さやか主任研究員（以下、井上研究員と略す）が「万葉集が語りかけてくる心」と題して講演。
- 二月 十一日 日本風景街道「まほろば」連絡協議会主催の「風景街道まほろば語り部ツアー」第九回で、竹本研究員が「上ツ道と阿倍山田道」と題して講義。
- 二月 十二日 第三八回研究所講座で、曹研究員が「『万葉集』の社交歌―中国少数民族の歌文化から考える―」と題して講演。
- 二月 十九日 万葉文化館ボランティア研修会において、井上研究員が「万葉集の基礎知識」の講師を務める。
- 二月 二十日 万葉文化館ボランティア研修の实地研修Ⅱにおいて、竹本研究員と曹研究員が实地研修の講師を務める。
- 二月 二十二日 友の会共催「万葉集をよむ」で、竹本研究員が「巻二の世界（上）一三二―一四〇番歌①（歴史学から）」
- 二月 二十四日 ソフィア堺主催の連続講座「はじめての万葉集」で、井上研究員が「古代の堺と万葉集」を講義。
- 二月 二十六日 第三九回研究所講座で、上野誠副所長（以下、上野副所長と略す）が「遣唐使と万葉集」と題して講演。
- 二月 二十七日 日本風景街道「まほろば」連絡協議会主催の「風景街道まほろば語り部ツアー」第十回で、竹本研究員が引率講師を務める。
- 三月 三日 ソフィア堺主催の連続講座「はじめての万葉集」で、曹研究員が「古代日本の歌垣」を講義。
- 三月 五日 友の会共催「古事記をよむ」で、寺川眞知夫万葉古代学研究所長（以下、寺川所長と略す）が「須佐之男命の乱暴と天の石屋隠り」を講義。
- 三月 十一日 ソフィア堺主催の連続講座「はじめての万葉集」で、竹本研究員が「万葉集の本を読む前に」を講義。
- 三月 十二日 第四〇回研究所講座で、井上研究員が「黄葉とは何か―万葉歌と墨書土器―」と題して講演。
- 三月 十八日 奈良県「記紀・万葉プロジェクト」の推進チーム会議に、井上研究員が出席。同委員会に同席。
- 三月 二十日 両槻会定例講座にて、井上研究員が「飛鳥と万葉集」と題して講演。

三月二二日 友の会共催「万葉集をよむ」で、曹研究員が「巻二の世界（上）一三一〜一四〇番歌②（文学から）」を講義。

三月二六日 第四一回万葉古代学研究所講座で、竹本研究員が「埴安池考」を講演。

三月二八日 第六回委託共同研究「『万葉集』と歌木簡―東アジアにおける詩歌の場と記録メディアの展開―」（代表・多田伊織皇學館大学講師・研究員）の第四回共同研究会を開催。

三月二九日 NHK学園主催のスクーリング「万葉のふるさとを訪ねて」において、井上研究員が同題目にて講演。

三月三一日 曹研究員が離任。

平成二十三年度

四月一日 小倉久美子研究員（以下、小倉研究員と略す）が着任。

四月八日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第一回）を講義。

四月一日 友の会共催「古事記をよむ」で、寺川所長が「須佐之男命の八俣遠呂智退治」を講義。

四月一五日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第二回）を講義。

四月一八日 友の会共催「万葉集をよむ」で、井上研究員が「巻二の世界（下）一四一〜一四六番歌」を講義。

四月二三日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第三回）を講義。

四月二三日 第八回奈良県立万葉文化館友の会講座「記紀万葉ウォーク①山の辺の道に『記紀』をたずねて」で、井上研究員が引率講師を務める。

五月六日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第四回）を講義。

五月一三日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第五回）を講義。

五月一四日 第四二回研究所講座で、寺川所長（同志社女子大学特任教授）が「額田王について」と題して講演。

五月一六日 友の会共催「万葉集をよむ」で、竹本研究員が「巻二の世界（下）一四七〜一五五番歌」を講義。

五月二〇日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第六回）を講義。

五月二七日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第七回）を講義。

- 五月二九日 関西詩人協会主催の「飛鳥・万葉の旅」において、井上研究員が同題で講義。
- 六月三日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第八回）を講義。
- 六月二〇日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第九回）を講義。
- 六月二一日 第四三回研究所講座で、高橋文二氏（駒澤大学名誉教授）が「源氏物語の風景描写と万葉集の叙景」と題して講演。
- 六月二三日 友の会共催「古事記をよむ」で、寺川所長が「八上比売への妻問と稲羽素菟」を講義。
- 六月二七日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第一〇回）を講義。
- 六月二〇日 友の会共催「万葉集をよむ」で、小倉研究員が「巻二の世界（下）一五六―一六二番歌」を講義。
- 六月二四日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第一一回）を講義。
- 七月一日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第一二回）を講義。
- 七月三日 美夫君志会全国大会で、井上研究員が「『海辺望月作歌』と『関山月』」と題して研究発表。
- 七月五日 第六回委託共同研究「『万葉集』と歌木簡―東アジアにおける詩歌の場と記録メディアの展開―」（代表・多田伊織京都大学人文研究所研究員）の第一回共同研究会を開催。
- 七月八日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学会館にて開催され、井上研究員が出席。
- 七月一〇日 記紀万葉プロジェクトの首都圏シンポジウムに、井上研究員が出席。
- 七月一五日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第一四回）を実施。
- 奈良県教育研究所 平成二十三年度学校教育番組組「国語教材」第一回専門委員会に竹本研究員が専門委員として出席。
- 七月一六日 国際日本文化研究センター共同研究会「日記の総合的研究」（於、国際日本文化研究センター）で、小倉研究員が「『万葉集』における日付の役割」と題して研究報告。
- 七月一七日 陳馨奈良県海外技術研修員が着任。
- 七月一八日 友の会共催「万葉集をよむ」で、井上研究員が

「卷二の世界(下)一六三〜一六六番歌」を講義。
第四回主宰共同研究「飛鳥からの発信―万葉古代学の地平―」の第一回研究会を開催。今後の研究計画について検討。

七月二四日 第四回研究所講座で、河上邦彦氏(神戸山手大学教授)が「飛鳥の遺跡と万葉集」と題して講演。

七月二八日 奈良県教育研究所主催の「奈良の素材を生かした国語の授業づくり研修講座」で、上野副所長が「今求められる古典教育とは」、井上研究員が「古文を楽しく教える―『万葉集』を例に―」と題して講義、竹本研究員が館内視察を引率。

七月二九日 夏休み子ども万葉教室で、竹本研究員が講師を務める。

奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」(第一五回)を実施。

七月三〇日 夏休み子ども万葉教室で、小倉研究員が講師を務める。

東アジアサマースクールNARASIA未来塾で、井上研究員と竹本研究員が館内視察を引率。

八月 六日 万葉文化館「七夕祭り」にて、上野副所長が万葉トクを実施。

八月 七日 第一三回東京講座として、奈良まほろば館において井上研究員が「飛鳥の潜在力―文学と歴史―」を講演。

八月 八日 友の会共催「古事記をよむ」で、寺川所長が「大穴牟遲神と根之堅州国訪問と国作」を講義。

八月二〇日 第四五回研究所講座で、木下武司氏(帝京大学教授)が「万葉植物再考―万葉人の目線で植物を観る―」と題して講演。

一〇周年記念「『文学と歴史』展―万葉文化館蔵古典籍展―」を、展示棟地下一階にて開催(九月二五日まで)。館職員および館内ボランティアガイドを対象とした説明会で、井上研究員、竹本研究員、小倉研究員が展示概要について講義。

八月二〇〜二二日 奈良女子大学古代学術研究センターと共催で、二〇一一年度若手研究者支援研修プログラム「古事記と萬葉集」を開催。二一日に万葉文化館企画展示室において、奥村悦三氏(奈良女子大学教授)、乾善彦氏(関西大学教授)、榎本福寿氏(佛教大学教授)、内田賢徳氏(京都大学大学院教授)による公開講演会およびシンポジウムを実施。二〇日は奈良女子大学で万葉語学文学研究会共催の研究発表会、

二二日は踏査が開催された。

八月二三日 友の会共催「万葉集をよむ」で、竹本研究員が「卷

二の世界（下）一六七〜一九三番歌」を講義。

八月二六日 古都飛鳥保存財団主催の「飛鳥楽校」（祝戸荘）で、

井上研究員が「万葉集を学ぼう」と題して講義。

八月三十一日 奈良県教育研究所 平成二十三年度学校教育番組

「国語教材」第二回専門委員会に井上・竹本研究員が専門委員として出席し、井上研究員が「教科書掲載の万葉歌について」、竹本研究員が「奈良県にある漢字資料」を報告。

九月一日 第四回主宰共同研究「飛鳥からの発信―万葉古代学の地平―」の第二回研究会を開催。基礎資料として、

井上研究員が「飛鳥に関連する万葉歌」を、竹本研究員が「古代飛鳥関係の基礎資料」をそれぞれ報告。

犬飼公之前宮城女学院大学教授が「始祖・天武と明日香―日本と朝鮮―」について報告。

九月二日 第四回主宰共同研究「飛鳥からの発信―万葉古代学の地平―」の第三回研究会を開催。招聘講師として

和田萃京都教育大学名誉教授が「明日香村の古代史」について講義。台風の影響で予定されていた明日香村内史跡踏査を中止。辰巳和弘前同志社大学教授が

「百枝槻と古代王権」を報告。

九月六日 「『文学と歴史』展―万葉文化館蔵古典籍展―」の

展示品（一部）を展示替え。

九月九日 古都飛鳥保存財団主催の「飛鳥版科学」問題作成委員会に、井上研究員が出席。

九月一〇日 第四六回研究所講座で、品田悦一氏（東京大学大学院准教授）が「昭和初期の万葉ブームをめぐって

―国民歌人斎藤茂吉の誕生―」と題して講演。

九月一二日 友の会共催「万葉集をよむ」で、小倉研究員が「卷二の世界（下）一九四〜一九八番歌」を講義。

九月二三日 第八六回奈良県立万葉文化館友の会講座・十周年記念企画「初秋の明日香を満喫する旅」で、寺川所長

が「記紀万葉の明かり」を講義。

九月二四日 第八六回奈良県立万葉文化館友の会講座・十周年記念企画「初秋の明日香を満喫する旅」で、小倉研究

員が引率講師を務める。

九月二五日 第八回公開シンポジウム「万葉集と民族学」を開催。

後藤明（南山大学教授）主宰の第五回委託共同研究「万葉の深層を探るエスノアルケオロジー的研究―とくに海洋伝承を中心に―」（平成二一・二二年度実施）の成果報告として実施。寺川所長による開催

挨拶の後、「はじめに」として後藤明（南山大学教授）より第五回万葉古代学研究所委託共同研究の概要説明、「第1部 万葉世界の海と山、生と死」として「海から見た万葉の景観」石村智、「山の景観とコスモロジー」大西秀之、「海と墓―瀬戸内と南島を例に―」角南聡一郎、「葬送船の記憶」深澤芳樹、「第2部 万葉世界の食と植物」として「稲作をめぐる万葉集の景観」細谷葵、「古代のヒレと手巾（ティサージ）」東村純子、「万葉集における水と飲料の文化」木村栄美、「第3部 万葉世界の動物たち」として「ウミガメにまつわる報恩説話と禁忌伝承」藤井弘章、「守護神としてのサメにかんする伝承」辻貴志、が報告された。その後、「コメントと討論」も実施された。

九月三〇日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第一回）を講義。

一〇月 三日 友の会共催「古事記をよむ」で、寺川所長が「大國主命と沼河比賣・須勢理毘売命」を講義。

奈良県立大学において、竹本研究員が「地域創造学特別講義Ⅱ―日本古代史研究―」（第一回）を講義。

一〇月 七日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の

文学と奈良文化」（第二回）を講義。

NPO法人かなえ会主催の講座で、竹本研究員が「飛鳥を歩く」を講義。

一〇月一〇日 奈良県立大学において、竹本研究員が「地域創造学特別講義Ⅱ―日本古代史研究―」（第二回）を講義。

一〇月一四日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第三回）を講義。

登美ヶ丘南公民館主催の講座「大和の万葉歌碑をめぐる」で、竹本研究員が「歌碑の位置と万葉歌本文」と題して講演。

一〇月一七日 友の会共催「万葉集をよむ」で、井上研究員が「巻二の世界（下）一九九〜二〇二番歌」を講義。

奈良県立大学において、竹本研究員が「地域創造学特別講義Ⅱ―日本古代史研究―」（第三回）を講義。

一〇月一八日 奈良県教育研究所 平成二十三年度学校教育教育番組「国語教材」第三回専門委員会に竹本研究員が専門委員として出席し、「古代の漢字史料」を報告。

財団法人神奈川韓国総合教育院主催の「コリアンカルチャーサロン二〇一一」で、神奈川韓国会館にて井上研究員が「万葉集の世界認識」と題して講演。

一〇月二〇日 竹本研究員が、NHK「日曜美術館」の取材対応お

よび館内視察を引率。

一〇月二二日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第四回）を講義。

奈良県立大学において、竹本研究員が「地域創造学特別講義Ⅱ―日本古代史研究―」（第四回）を講義。

一〇月二四日 奈良県立大学において、竹本研究員が「地域創造学特別講義Ⅱ―日本古代史研究―」（第四回）を講義。

一〇月二八日 東京都中央区主催の「記紀万葉講座」で、井上研究員が「記紀・万葉の愉しみ」と題して講演。

一〇月二九日 第一四回東京講座として、奈良まほろば館において寺川所長が「天武天皇と古事記」を講演。

一〇月三〇日 第四七回万葉古代学研究所講座で、竹本研究員が「木簡と万葉古代学」と題して講演。

一〇月三一日 奈良県立大学において、竹本研究員が「地域創造学特別講義Ⅱ―日本古代史研究―」（第五回）を講義。

一〇月四日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第五回）を講義。

NPO法人かなえ会主催の講座で、竹本研究員が檜隈地域の遺跡の引率講師を務める。

一〇月六日 万葉文化館「大飛鳥展」記念講演「大いなる飛鳥」で、寺川所長が「古代飛鳥の景観」と題して講演。

一二月七日 友の会共催「万葉集をよむ」で、竹本研究員が「巻

二の世界（下）二〇三―二〇六番歌」を講義。

一二月八日 奈良芸術短期大学主催の明日香学講座で、井上研究員が「明日香と万葉集―Ⅰ」と題して講演。

一二月九日 テレビ大阪「おとな旅あるき旅」の番組撮影に際して、井上研究員が取材対応および館内案内（十二月三日放送）。

一二月一一日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第六回）を講義。

一二月二二日 友の会主催「記紀万葉ウォーク② 万葉の忍坂から隠口の初瀬へ」で、竹本研究員が引率講師を務める。

一二月二四日 奈良県立大学において、竹本研究員が「地域創造学特別講義Ⅱ―日本古代史研究―」（第六回）を講義。

一二月二五日 奈良芸術短期大学主催の明日香学講座で、井上研究員が「明日香と万葉集―Ⅱ」と題して講演。

一二月二七日 奈良県観光見本市エクスカーションで、井上研究員が「記紀万葉コース―古事記完成一三〇〇年―古

事記が語り、そして歌う國・うるわしきやまとへ」の引率講師を務める。

一二月二〇日 企画展示室で、万葉古代学研究所一〇周年記念国際シンポジウム「世界で考える万葉集」を開催。基調

- 講演として、劉雨珍氏（南開大学教授）が「中国語圏からの視点…万葉集と中国文化」を、李妍淑氏（東義大学校教授）が「韓国語圏からの視点…韓国で考える万葉集」を、ローベルト・ヴィットカンブ氏（関西大学教授）が「独語圏からの視点…万葉集における記憶詩歌—文化研究からの試み」を、ジェイスン・ウェップ氏（オレゴン大学助教授）が「英語圏からの視点…『万葉集』と『懐風藻』の間—大輪高市麻呂を中心に」をそれぞれ講演した後、パネルディスカッションを実施。井上研究員がコーディネーターを務める。
- 一一月二二日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第七回）を講義。
- 奈良県立大学において、竹本研究員が「地域創造学特別講義Ⅱ—日本古代史研究—」（第七回）を講義。
- 一一月二五日 第三回「NARA万葉世界賞」審査会を実施。
- 一一月二六日 城西国際大学附属水田美術館主催の「城西国際大学創立二〇周年記念・描かれた万葉の世界—近代日本画にみる古代への憧れ—」関連企画講演会で、井上研究員が「万葉歌のまなざし—飛鳥・奈良の風景—」と題して講演。
- 一一月二八日 実業印刷発行の雑誌『まほろびすと』「古代を感じるミュージアム」コーナーで、井上研究員が取材対応（創刊号、一月二八日発行）。
- 奈良新聞の記紀万葉に関する取材に井上研究員が対応（一月一日号掲載）。
- 一一月二九日 第六回委託共同研究「『万葉集』と歌木簡—東アジアにおける詩歌の場と記録メディアの展開—」（代表・多田伊織京都大学人文研究所研究員）の第二回共同研究会を開催。
- 古都飛鳥保存財団主催の「飛鳥版科挙」実施報告会に、井上研究員が出席。
- 一一月二日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第八回）を講義。
- 一一月四日 全国大学国語国文学会平成二十三年度冬季大会（於、大分大学）で、小倉研究員が「平安前期における挽歌の位相」と題して研究報告。
- 一一月五日 奈良県立大学において、竹本研究員が「地域創造学特別講義Ⅱ—日本古代史研究—」（第八回）を講義。
- 一一月九日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第九回）を講義。
- 一一月一〇日 第四八回研究所講座で、井上研究員が「万葉歌は季

節をどう表現したか」と題して講演。

二月二日 友の会共催「古事記をよむ」で、寺川所長が「大國主命と少名毘古那命・大物主神」を講義。

奈良県立大学において、竹本研究員が「地域創造学特別講義Ⅱ―日本古代史研究―」（第九回）を講義。

二月二六日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第十回）を講義。

二月二八日 第一五回東京講座として、奈良まほろば館において竹本研究員が「柿本人麻呂と石見」を講演。

二月二九日 友の会共催「万葉集をよむ」で、小倉研究員が「巻二の世界（下）二〇七―二二六番歌」を講義。

奈良県立大学において、竹本研究員が「地域創造学特別講義Ⅱ―日本古代史研究―」（第十回）を講義。

二月二五日 関西テレビ「よゝいドン！」の「自画自賛旅しおり」で、小倉研究員が館内を案内（二月二〇日放送）。

一月 六日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第十一回）を講義。

一月 八日 第四回主宰共同研究「飛鳥からの発信―万葉古代学の地平―」の第四回研究会を開催。高橋孝信東京大

学大学院教授が「詩作の場、発表の場」について報告、招聘講師として亀田修一岡山理科大学教授が

「百済から飛鳥へ」について講義。

一月 九日 第四回主宰共同研究「飛鳥からの発信―万葉古代学の地平―」の第五回研究会を開催。辰巳和弘前同志

社大学教授が「古代王宮の景観論」を報告。招聘講師として山本彰大阪府教育委員会文化財保護課調査

第一グループ補佐が「河内飛鳥」について講義。

一月二四日 万葉文化館友の会主催の講座で、陳馨海外研修員が「巨木伝承の探究―『風土記』を中心に」を報告、その後、陳海外研修員と井上研究員による対談を実施。

一月二六日 友の会共催「万葉集をよむ」で、井上研究員が「巻二の世界（下）二一七―二二二番歌」を講義。

奈良県立大学において、竹本研究員が「地域創造学特別講義Ⅱ―日本古代史研究―」（第十一回）を講

義。

陳馨海外研修員が離任。

一月二〇日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第十二回）を講義。

一月二二日 第一六回東京講座として、奈良まほろば館において上野副所長が「三笠山の月」を講演。

一月二二日 第四九回研究所講座で、上野副所長が「白川静の万

葉学」と題して講演。

美夫君志会の「万葉集の自然・景観・風土」シンポジウムにおいて、井上研究員が「自然観と季節表現」を報告。

一月二三日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第十三回）を講義。

奈良県立大学において、竹本研究員が「地域創造学特別講義Ⅱ―日本古代史研究―」（第十二回）を講義。

一月二五日 奈良県立大学主催「やまとまほろば学」講座において、井上研究員が「奈良の文化―万葉の世界―」と題して講義。

一月二七日 奈良県立医科大学において、寺川所長が「古典文学にみえる病氣と治療」と題して特別講義の講師を務める。

奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第十四回）を講義。

一月二九日 日本画展示室での「新春の万葉日本画展―万葉ことばあそび 万葉歌留多―」において、関連資料を展示（三月二五日まで）。

一月三〇日 奈良県立大学において、竹本研究員が「地域創造学

特別講義Ⅱ―日本古代史研究―」（第十三回）を講義。

※肩書き・題目などは、すべて当時のもの。

専任研究員のおもな業績（平成二十三年二月～平成二十四年一月）

井上 さやか

〔研究論文〕

○『黄葉』の宴―万葉歌と墨書土器のあいだ―（『万葉古代学研究所年報』九号）平成二十三年三月

○『万葉集』における「旅」―「関山月」の和化について―

（『万葉古代学研究所年報』九号）平成二十三年三月

〔研究発表〕

○『海辺望月作歌』と『関山月』（美夫君志会全国大会）平成二十三年七月

○シンポジウム「万葉集の自然・景観・風土」（美夫君志会一月例会）平成二十四年一月

〔その他〕

○「話のみなもと 万葉の旅」連載（『日本教育』平成二十三年二月号～平成二十四年一月号）平成二十三年二月～平成二十四年一月

○「おすすめ万葉歌」（「よろずは」第三二号～第三七号、平成二十三年三月～平成二十四年一月）

○分担執筆『「記紀神話」神名・伝承・系譜事典』『よくわかる日本の神話と神々』（新人物往来社）平成二十三年三月

○「記紀に親しむ 第2回 沙本毘売の選択」（『県民だより奈良』

七月号（第三〇一号）、奈良県広報広聴課）、平成二十三年七月

○【特集ワイド】古事記・日本書紀 謎の神々「ヒトコトヌシ」（『歴史読本』五六巻一号、新人物往来社）、平成二十三年十一月

○「万葉集を訪ねて 第4回 石上布留の神杉」（『県民だより奈良』十二月号（第三〇六号）、奈良県広報広聴課）、平成二十三年十二月

月

○「記紀に親しむ 第5回 三輪山の伝説」（『県民だより奈良』一月号（第三〇七号）、奈良県広報広聴課）、平成二十四年一月

竹本 晃

〔研究論文〕

○『万葉集』にみえる石川郎女について」（『万葉古代学研究所年報』九号）、平成二十三年三月

○「平城京と家との往還における官人の意識」（『万葉古代学研究所年報』九号）、平成二十三年三月

○「記紀にみえる古代氏族」（『伊賀市史』第一巻、通史編、古代中世）、平成二十三年三月

○「日本木簡資料的検索方法」（『唐都学刊』二〇一一年第二十七卷第五期（総一二五期））、平成二十三年九月

〔その他〕

○「研究者としての特殊技術」(『市大日本史』一四号)、平成二十三年五月

○【特集ワイド】古代豪族のルーツと末裔・阿倍氏」(『歴史読本』五六巻八号、新人物往来社)、平成二十三年八月

○「万葉集を訪ねて 第3回 二上山と大伯皇女」(県民だより奈良 十月号〔第三〇四号〕、奈良県広報広聴課)、平成二十三年十月

○「万葉集を訪ねて 第4回 墨江中王(墨江之中津王)事件」(県民だより奈良 十一月号〔第三〇五号〕、奈良県広報広聴課)、平成二十三年十一月

○展示内容紹介(「よろずは」第三二号・三月、第三四号・平成二十三年八月、第三六号・平成二十三年十一月)

小倉久美子

〔研究発表〕

○『万葉集』における日付の役割」(国際日本文化研究センター共同研究会)、平成二十三年七月

○「平安前期における挽歌の位相」(全国大学国語国文学会平成二十三年度冬季大会)、平成二十三年十二月

〔その他〕

○「『壺師の花』の謎」(友の会報「天飛ぶ」第三一号「万葉歌の魅

力をさぐる二二二)、平成二十三年一月

○『万葉集』は良い歌?悪い歌?」(『万葉図書・情報室だより』第三一号)、平成二十三年十一月

○展示内容紹介(「よろずは」第三三号・平成二十三年七月、第三五号・平成二十三年十月、第三七号・平成二十三年一月)

万葉古代学研究所年報(第一号〜第九号) 目次

■第一号(二〇〇三年三月)

創刊にあたって

中西 進

近江荒都歌

寺川眞知夫

古代における原と山野

松尾 光

『万葉集』編纂資料についての一考察

松田 信彦

「物色」の倭製

井上さやか

大伴旅人の「讃酒歌」における猿について

劉 雨珍

日本琴の歌

加藤 静雄

壬申の「乱」と万葉集

金井 清一

平成一四年度海外研修員研修報告

劉 雨珍

研究所彙報

■第二号(二〇〇四年三月)

(論文)

日向神話の設定

寺川眞知夫

初期万葉挽歌と遊離魂感覚

上野 誠

山部と山守部

松尾 光

日本書紀編纂についての一疑問

松田 信彦

「秋芽子」の形成

井上さやか

上田秋成の憶良論

勾 艶軍

(報告)

平成一五年度海外研修員研修報告

勾 艶軍

研究所彙報

■第三号(二〇〇五年三月)

(個人論文)

旅人の讃酒歌―理と情―

寺川眞知夫

出雲市青木遺跡の出土木簡について

松尾 光

天皇即位表現から見た日本書紀本文の一側面

松田 信彦

上代語彙としての「しぐれ」

井上さやか

「梧桐日本琴一面」の趣旨―文人の処世観を中心に

孟 彤

(報告)

平成一六年度海外研修員研修報告

孟 彤

研究所彙報

(共同研究報告)

第一回万葉古代学研究所主宰共同研究報告

総論／ユーラシア大陸と万葉集I

寺川眞知夫

各論／万葉研究の視点から／『万葉集』の宴を題詞にもつ歌

寺川眞知夫

万葉研究の視点から／万葉歌における古代の発想と表現

井上さやか

古代歌謡の視点から／古代歌謡における短歌形式の側面

松田 信彦

古代文化の視点から／『万葉集』のウタをユーラシア文化の

中で考える

内藤 磐

南島文化の視点から／奄美大和村八月歌儀礼的曲目

田畑 千秋

日本民俗学の視点から／日本民俗学の研究領域拡大―新しい

共同研究の前提

上野 誠

日本考古学の視点から／神仙思想の伝来と倭化

日本古代史の視点から／宴の場の成立

松尾 光

韓国文化の視点から／韓国の巫歌と詩歌の詩律と民謡の音律

金 両基

中日比較文学の視点から／楽府詩と『万葉集』

劉 雨珍

中日比較文学の視点から／敦煌の歌辞

王 暁平

中国文学の視点から／万葉集における叙事大歌の形成

―中国西南少数民族の大歌との関係から―

辰巳 正明

台湾文化の視点から／歌を規制する眼差し

―台湾ヤミ族の神の歌

皆川 隆一

タイ文学の視点から／タイの民間歌謡など

岩城雄次郎

南インド文学の視点から／タミル古代恋愛文学の奥書の起源

高橋 孝信

モンゴル文学の視点から／モンゴルの口承文芸

―特色と問題点―

原山 煌

ロシア文学の視点から／キエフ・ルーシ（中世ロシア）に

ける文学の発生

栗原 成郎

オリエントの視点から／古代メソポタミアの神話と文学

月本 昭男

神話学の視点から／異界の神話学 ―海の異界を中心に―

松村 一男

■第四号（二〇〇六年三月）

（個人研究）

日本における舍利伝承の展開―敏達紀から『今昔物語集』まで―

寺川眞知夫

唐津市中原遺跡出土の成人木簡について

松尾 光

推古紀二十年正月条の置酒の宴と上寿歌に関する二、三の疑い

松田 信彦

景物としての“鳴く鹿”―詠物歌と物色の倭製―

井上さやか

中国における『万葉集』の翻訳
（報告）

沈 琳

平成一七年度海外研修員研修報告

沈 琳

研究所彙報

大和における御田植祭の系譜
武藤 康弘

万葉歌に詠まれた山―その景観認識をめぐる覚書―
出田 和久

(共同研究)

万葉古代学研究所第一回委託共同研究報告

総論／奈良県における万葉古代学関連研究の史的研究

坂本 信幸

■第五号(二〇〇七年三月)

(個人論文)

各論／近世期における万葉研究 下河辺長流の万葉研究

坂本 信幸

本居宣長の「大和―菅笠日記」と『古事記伝』(プレ万葉の

旅として)―

橋本 雅之

『萬葉集古義』の故地研究

毛利 正守

大和名所図会の万葉歌―万葉地理研究前史として―

乾 善彦

大井重二郎氏の万葉地理研究とその功績 影山 尚之

辰巳利文氏の活動について―奈良県における大正期から昭

和初期にかけての万葉地理研究―

垣見 修司

豊田八十代の万葉地理研究

井ノ口 史

奈良女子師範の万葉研究―徳田浄の研究―

坂本 信幸

古代史研究と『万葉集』―奈良県関係者の研究史ノート―

館野 和己

北浦定政と地名研究

岩本 次郎

タカミムスヒ・アマテラス・伊勢神宮―皇祖神の変化の意味するもの―
寺川眞知夫

大伴坂上郎女と大伴駿河麻呂の贈答歌―「怨み」をめぐる表現の特

性と内実と―

上野 誠

万葉八九四番歌の言霊について

松尾 光

景行天皇紀、時人の歌(紀二四番歌謡)についての一考察

松田 信彦

「春草」とハルクサ―季名を冠する物色の倭製―

井上さやか

『万葉集』と『芸文類聚』における詠雪詩歌の比較

孫 立春

(報告)

平成一八年度海外研修員研修報告

孫 立春

研究所彙報

(共同研究報告)

万葉古代学研究所第二回委託共同研究報告

阿騎野と宇智野―『万葉集』のコスモロジー―

梶川 信行

山上憶良の処方箋―都市平城の病―

東 茂美

女性歌人たちの地名表現―平城京を中心に―

野口 恵子

「行巻」としての万葉集―平城京の官僚社会と文学の相関性について―

西地 貴子

庭園宴遊と「自然」詠と―大伴家持「布勢水海遊覧」歌群の一考察―

梶 裕史

大伴家持と越前・越中の在地社会―家持の墾田をめぐって―

中村 順昭

大伴家持と平城京の政界―政治権力の動向を中心として―

木本 好信

歌の国々―万葉集歌と催馬楽と―

藤原 茂樹

平城京の仏教―唐からもたらされた文学の「場」と「体系」―

藏中しのぶ

■第六号（二〇〇八年三月）

（個人論文）

沈痾自哀文と患文

寺川眞知夫

和泉監・芳野監の呼称について

松尾 光

「日晩」という表語―漢字文化圏における万葉歌の位置を探るため

に― 井上さやか

允恭天皇紀にみる訓注の一機能―鬮鷄国造の人物造形と関わらせて―

天の声を聞く耳のために―日本古代音楽の間隙―

大館 真晴

中国における万葉集研究（一九七八年～二〇〇七年）

西地 貴子

（報告）

王 華

平成一九年度海外研修員研修報告

王 華

研究所彙報

（共同研究報告）

万葉古代学研究所第二回主宰共同研究報告

万葉古代学研究所第二回主宰共同研究総論

高市皇子挽歌誦詠の場と儀式―憶良の日本挽歌を参考に―

寺川眞知夫

死者への歌・死者からの歌―『万葉集』『文選』の挽歌の作中主体―

井上さやか

万葉挽歌詠の作者と場

松尾 光

日本書紀の葬送記事から見た日本古代の葬送儀礼

松田 信彦

うたといのり―万葉集と聖地の宗教学―

鎌田 東二

アイヌの葬送儀礼について―死亡から湯灌までの流れ―藤村 久和

中国朝鮮族の葬送儀礼

李 岩

守夜の哀歌―柿本人麿の日並皇子殯宮挽歌の形成―

辰巳 正明

モンゴルの葬送儀礼

藤井 麻湖

プラムは「雑歌」か―タミル古代文学のジャンル分け―高橋 孝信

海彼世界への魂の旅―オーストロネシア（南島）語族における死者

の島の諸相―

後藤 明

『指輪物語』における「死」の心象風景―墳墓・船葬・塚人―

辺見 葉子

うたといのり―西アフリカから考える―

嶋田 義仁

万葉古代学における比較研究の覚書

上野 誠

■第七号（二〇〇九年三月）

（個人論文）

野見宿禰の埴輪創出伝承

寺川眞知夫

古代東アジアの相関関係―万葉歌における地名表現から―

井上さやか

豊後国風土記・大分郡にみる地名起源の方法―古風土記にみる詠嘆

の助字「哉」・「乎」の検討から―

大館 真晴

万葉歌木簡一考―あさなぎ木簡―

竹本 晃

渡来系万葉歌人妙観の苗字と出自―『万葉集』と『続日本紀』に見

える渡来人についての一考察―

葛 継勇

（報告）

平成二〇年度海外研修員研修報告

葛 継勇

研究所彙報

（共同研究報告）

万葉古代学研究所第三回委託共同研究報告

序 文 共同研究「万葉集の成立基盤としてのヤマトの信仰的世界

観―二上山地域を視座として―」について 大石 泰夫

第一部 ヤマトと二上山地域

万葉歌にみるヤマト

城崎 陽子

ヤマトの西と東―古道にみる二上山地域―

〔附論〕『死者の書』が描いた二上山

渡部 修

水分神社の祭祀と信仰―万葉集の成立基盤としてのヤマト

の信仰的世界観―

大石 泰夫

二上山と大津皇子の「移葬」

菊池 義裕

第二部 二上山地域の信仰と伝承

二上山の彼方―當麻の時空―

志水 義夫

フタカミの伝承

伊藤 高雄

ダケノボリ・オンダの信仰と伝承

城崎 陽子

二上山山麓の仏教民俗

吉川 祐子

■第八号（二〇一〇年三月）

（個人論文）

狭岑嶋の石中死人を視て作る歌

寺川眞知夫

『万葉集』と欧文挿絵本―その今日的意義について―

井上さやか

「安礼衝」と永続性―藤原宮御井歌と短歌をつなぐもの―

竹本 晃

万葉集巻頭歌の形成―中国採桑文学との比較―

曹 咏梅

憶良文学における愛と『論語』―「仁愛」思想を中心に―

張 士傑

(報告)

平成二二年度海外技術研修員研修報告書

張 士傑

研究所彙報

(共同研究報告)

万葉古代学研究所第四回委託共同研究報告

万葉歌と奄美の声の歌との比較研究

真下 厚

歌垣の現場性と万葉恋歌の観念性―証人としての他者と「人目」

「人言」

工藤 隆

乞食者詠と八重山のユングトゥウ

狩俣 恵一

対唱歌の力学

岡部 隆志

口頭伝承のなかでうたを書くということ

手塚 恵子

ロシアの歌文化と掛け歌のタイポロジーに関して

エルマコーワ・リュドミラ

中国湖南省苗族歌文化調査報告

工藤 隆

中国湖南省鳳凰県苗族女性シャーマン聞き書

真下 厚

■第九号(二〇一一年三月)

(個人論文)

「黄葉」の宴―万葉歌と墨書土器のあいだ―

井上さやか

『万葉集』にみえる石川郎女について

竹本 晃

宴と儀礼歌―巻一・八四番歌の解釈を中心に―

曹 咏梅

万葉集三六四〇番歌の作者羽栗について

呉 玲

(報告)

平成二二年度海外技術研修員研修報告書

呉 玲

平成二二年度研修員報告書

研究所彙報

大門 敦子

研究所彙報

(共同研究報告)

万葉古代学研究所第三回主宰共同研究報告

寺川眞知夫

第三回主宰共同研究「旅と『万葉集』」

寺川眞知夫

柿本人麻呂の旅―人麻呂は旅において風土をどのように表現したか―

万葉びとの小さな旅

寺川眞知夫

『万葉集』における「旅」―「関山月」の和化について―

上野 誠

平城京と家との往還における官人の意識

井上さやか

李朝末期の詩人金笠と旅

竹本 晃

曹 咏梅

曹 咏梅

アメリカ南部の歌謡における「旅」

ウェット・ジェイスン

馮夢龍『山歌』と妓女

大木 康

グリム童話における旅

加藤 耕義

旅は憂いもの―民俗学的な視点から―

神崎 宣武

警女研究拾遺

グローマー・ジェラルド

船の旅化粧

後藤 明

古代タミルの塩の道

高橋 孝信

死者の旅―天上楽土と指路経について―

辰巳 正明

遍歴する聖と琵琶法師

兵藤 裕己

「盤王大歌」―旅する祖先―

廣田 律子

大伴家持の春巡行と立山の景

藤田富士夫

奈良時代前後の行旅者について

松尾 光

日本宗教における旅の類型と相関―宗教民俗学の立場から―

宮家 準

(報告)

NARRA万葉世界賞